

クロスロードのつどい全国大会 IN 仙台 を主催

歩一步たいそう(ズーズー弁翻訳版)で防災啓発活動

—わしん俱楽部・田中勢子代表に聞く—

災害対応のシミュレーションによる防災ゲーム・クロスロードを介して交流する「クロスロードのつどい全国大会 IN 仙台」が6月21日、仙台市役所8階講堂で開催された(8月号カラーグラビア参照)。主催はわしん俱楽部。共催は仙台市役所自主勉強会(Team Sendai)。後援は仙台市。各地から、消防、危機管理等に関わる約150人が参加した。

本稿では、今回、仙台市における本大会を主催したわしん俱楽部の田中勢子代表にお話を聞く。

また、社会福祉法人呉市社会福祉協議会(広島県)が童謡「うさぎとかめ」のメロディをもとに作った災害啓発体操「歩一步たいそう」(<http://kureshakyo.net/index.php/hoippo/>)をさらに、わしん俱楽部が仙台弁におきかえて作ったその「ズーズー弁(仙台弁)翻訳版」を併せて紹介する。なお、わしん俱楽部は、平成21年の「とうほく☆地域を守る防災コンテスト2009」で、「歩一步たいそうで、日本はひとつ! ~呉からの風をあなたに~」の発表により優秀賞を受賞した。

本誌 このたびの「クロスロードのつどい全国大会 IN 仙台」では、充実したイベントを有り難うございました。田

わしん俱楽部 代表
田中 勢子 氏



中代表の防災との関わり、わしん俱楽部の設立経緯について聞かせてください。

田中勢子わしん俱楽部代表 平成11年(1999年)、私は父の事業(和信興産株式会社)を引き継ぐことになりました。

宮城県沖地震の発生が危惧されており、従業員の安全を守る必要から、防災について勉強し、平成17年に防災士(NPO法人日本防災士機構認定)の資格を取得しました。

資格を取得したものの、ひとことに防災といっても、地学や気象学、建築学等、広範囲にわたる専門分野があり、自分がその中の何を中心に学ぶべきなのか、その後しばらくは試行錯誤を繰り返していました。

そんな折の平成19年、慶應義塾大学の吉川肇子先生の研

歩一步たいそう(ズーズー弁翻訳版)

地震	台風	道路
もーすも ずすんが おぎだなら	このごろ たいふう よぐきます	こうつう ずーこに ちゅういすて
まーずは あだまを まもらいよ	テレビか ラズオを つけましょう	みーぢに でだらば みぎしだり
りょうてで あだまを かがえこみ	みーみを いぎなり かだむげで	ついでに もいちど みぎをみて
つぐえの すーたさ もぐりましよう	たいふう じょうほう よくくきがい	あんぜん かぐにん までにやらいん

火事	洪水	ひったくり
もーすも かーずが おぎだなら	つーゅーや たいふうの おおあめで	つかごろ ひったぐり なんだもね
ハンカズ ぬらすて くぢさあで	こうずい けいほう でだごって	そーどに でだどぎ きつけらいん
ちゃっこく なってー けむりよげ	あすっこ まもれる くずはいで	だいづな もーのはー しっかりど
あんせんな どーござ にげねつけね	ひーなん じゅんびー いそがいよ	むーねさ かがえで あるがいよ



今回の大会でも歩一步たいそう（ズーズー弁翻訳版）が披露された（左）。右は、矢守克也京都大学教授（左）、吉川肇子慶應義塾大学教授。

修会で「クロスロード」と出会うことになりました。その後、吉川先生に紹介を頂き、防災ゲーム研究会（公益財団法人市民防災研究所）に参加するようになりました。この研究会で、ゲームシミュレーションにより楽しく防災・減災を学ぶことができるることになりました。

企業の社会貢献として、防災ゲーム等により、市民の皆さんのが防災、減災を楽しく学べるようにはたらきかけ、まさにこれが必要な活動であると思いました。この活動を行うことに共感した有志とともに、平成21年、わしん倶楽部を設立しました。

かみなり

ごろごろ	ピカピカ	おれさまだ
てっとう	きのそば	よってわがんね
どろんこ	ずべたも	なんのその
からだを	しーぐぐ	かまえっぺちゃ

ハチ

ぶんぶん	ブンブン	すがりきた
あわてて	うごいで	わがねえではば
すせいを	しーくく	ゆっくりど
うしろさ	しづがに	さがりましょう

津波

つーなみ	けいほう	おどけでね
きんじょの	ひーとさ	こえかげで
てっことり	あってー	なんばでも
たーかい	どーこさ	にげましょう

暴漢

よのなが	なんだか	わげわがりん
おそわれ	そーに	なったなら
はらがらだしだ	でっげいこえで	
たすけてけさいん！		
とさげぶんだー		

ご近所さん

つかごろ	あんだー	なじょする
いどばた	かいぎも	たいせづだあ
たがいに	えがおを	かわしあい
いーざと	いうどぎ	てーかすて

ほほえみがえし

めーわぐ	かーげで	ごめんなして
きにすんさんなー	おだがいよ	
ほほえみ	がえしが	ごきんじょに
ひろがる	わがまち	せんだいし



※ 地域によっては、多少表現が違う場合があるかもしれません。その場合は、みなさんの慣れ親しんだ言葉で、楽しく歌ってください。

※ 社会福祉法人呉市社会福祉協議会によるオリジナルの「歩一步たいそう」については、同協議会のホームページをご覧ください。



災害対応シミュレーションゲーム・クロスロードでは、災害時に判断を迫られる状況を想定し、参加者各々が判断を行い、意見交換を行う。

伝道師として有名な方ですが、歩一歩たいそうについても呉市社会福祉協議会の近藤吉輝さんと共に呉から発信され、精力的に普及活動を行っていらっしゃいました。

わしん俱楽部は、「地域の皆様と、楽しくいつまでも元気に！」を合言葉に、ごりんはつらつクラブ、こども夏祭り、老壯大学、親子防災教室等の地域減災活動で、この歩一歩たいそう等を用いて、安心・安全の啓発活動を行っています。

宮城野地区婦人防火クラブの総会で「うちらのため（呉市社会福祉協議会による歩一歩たいそう）」を行った際、「仙台弁の歌詞ならもっと親近感が持てますね」という意見を頂き、仙台市五輪町内会はじめ、仙台市市民有志の方々の協力により、「おれらのため（ズーズー弁翻訳版歌詞集・初版）」を完成させ、現在の「ズーズー弁翻訳版」となりました。

平成23年3月15日にレコーディングの予定でしたが、東

日本大震災が起り、メンバーの心の被災が大きく、いたんはCD作成を断念することも考えましたが、多くの方のご協力と「未来を担う子供たちはじめ市民の方々が自分の身を自分で守るきっかけになれば…」というメンバーの思いから、平成24年春、この歩一歩たいそうズーズー弁翻訳版のCDが完成しました。この体操を、国民の誰もが知っているラジオ体操のように、年齢を問わず、身につけてもらえるよう、取り組んでいきたいと思います。

東日本大震災直後のこと

本誌 東日本大震災発災の際のことをお聞かせください。

田中代表 被災直後に帰宅する途中で、町内の足のご不自由な方から「避難所につきそって欲しい」との依頼を受け、そのまま避難所に向かい、その後避難所で支援物資の

クロスロード みちのく宮城野編

※ 今回の全国大会では、この中からゲームが行われた。

あなたは市民です

問題：出先で被災し、近くの避難所へ！ みんなが寒さで震えているところに友人が毛布を1枚届けてくれた。

この毛布を使う？

YES（使う） OR NO（使わない）

あなたは60代の支援者です

問題：マンションの10階に住む、一人暮らしの車いす利用者に「避難所に連れて行って欲しい」と頼まれた。電気も止まり外は寒い中避難所に連れて行く？

YES（行く） OR NO（行かない）

あなたは避難所担当者です

問題：ペット連れの避難者が避難所のそばに車を止めています。「支援物資を欲しい」と言わされたが、支援物資を配る？

YES（配る） OR NO（配らない）

あなたは市民です

問題：動物が苦手です。避難所に犬を連れてきた人がいます。



クロスロード大洗編に係る講演(左)等も行われた。12月には神戸市で1千人のワークショップも開催される。右は、語り部による仙台市報告。

配布を行う食事係等として活動しました。

避難所で活動して一週間ほど経った時です。目の前が見えにくく咳が止まらない状態になりました。つきそった方に身内の方が迎えに来られたこともあり、私は避難所から自宅に戻りました。帰宅して診察を受けたら、結膜炎と喘息という診断を受け、その後三か月ほどの間、声が出ない、咳が続く状態となり、活発な活動はできなくなりました。

避難所でクロスロードが役立った

本誌 クロスロードについて聞かせてください。

田中代表 クロスロードは、矢守克也京都大学防災研究所

巨大災害研究センター教授、吉川肇子慶應義塾大学商学部教授らが開発した災害対応シミュレーションゲームです。阪神・淡路大震災の体験をもとに、行政職員の方々のジレンマを題材として作られました。

「災害対応は進退を決すべき岐路の連続」という理解のもと、多くの立場の人と話し合い、防災への理解を深めることを目的としています。

本誌 クロスロードが役立った事例はありますか。

田中代表 さきほどお話しした避難所で支援物資の配布をしていた時のことです。当時、ライフラインが途絶えていたことから、温かい食べ物はとても有り難く、避難所の人たちの体も心もほっとさせてくれるものでした。ある日、

外に出して欲しいと言う？

YES (言う) OR NO (言わない)

あなたは市民です

問題：親の安否確認に車で向かおうとしたとき、隣人から「どうしても人工透析に行かなければならないので、病院に送って欲しい」と言われた。

ガソリンが少量しかないが 送る？

YES (送る) OR NO (送らない)

あなたは20代女性です

問題：被災後翌日車で信号待ちをしている時急に男の人が飛び出して来て「同じ方向なら乗せてくれ」と言われた。車に乗せる？

YES (乗せる) OR NO (乗せない)

あなたは20代女性です

問題：被災当日バス停に立っていたら、若い男性の運転する車が止まり「同じ方向なら乗せてあげる」と言われた。車に乗る？

YES (乗る) OR NO (乗らない)

あなたは小学校1年生を持つ母親です

問題：被災翌日職場から「できれば出勤して欲しい」と言われた。こども一人留守番させ職場に行く？

YES (行く) OR NO (行かない)



翌日の22日には、エクスカーションとして、東日本大震災で被災した荒浜地区や閑上地区の視察も行われた。

避難所に避難していた約300人全員にレトルトのご飯を配布することができましたが、支援物資はそれよりも多くあって約150食が残りました。それをどうするか？ という判断を求められました。考えた結果、「お年寄りやお子さん、体の弱い方に温かいご飯をさしあげて、それ以外の方にはパンを配布しましょう」ということにしました。この判断が避難所の皆さんとの賛同を頂くことになりました。クロスロードで訓練していたことが、この判断を行うのに役立ったのだと思います。

保育園で役立ったぼうさいダック

本誌 ぼうさいダックについていかがですか？

田中代表 ぼうさいダックは、子供たちに、自分で自分の身を守る安心・安全の「最初の一歩」を、実際に身体を動かし、遊びながら学んでもらう防災ゲームです。

地震、火事、津波、台風、かみなり等の災害に遭った時に自然に初期動作をとれるように作られています。悪いことをしたとき等の事例も組み込まれていて、防災を生活の一環として学ぶことができるゲームになっています。

東日本大震災の数か月前、仙台市内の保育園で、園児に対してこのぼうさいダックを行いました。

3月11日の地震発生時、保育園ではちょうどお昼寝の時間でした。揺れを感じた園児たちは、お布団の上でダックのポーズ。保育士さんは「そのままいでなさい」と園児たちの上からタオルケットをかけ、揺れがおさまってから公園へと避難したそうです。

4月7日の余震の際にも、家にいた園児が揺れを感じてすぐにコタツにもぐったということです。

後日、その保育園の保育士さんから、「園児の親御さんに、とても良い教育をしてくださった、と感謝された」という報告を受けました。

東日本大震災を体験した私たちは…

本誌 わしん俱楽部の今後の展望について、聞かせてください。

田中代表 わしん俱楽部にはその他にも、平成26年3月に完成したぼうさいカルテットみちのく版、PUSHプロジェクト等、防災、減災に役立つレパートリーがあります。

ぼうさいカルテット平成26年3月みちのく版は、防災ゲーム研究会のご協力、こども☆はぐくみファンドのご支援を頂きわしん俱楽部が作成した、4枚の絵札をあわせて防災・減災を学ぶカードゲームです。

PUSHプロジェクトは、NPO法人大阪ライフサポート協会が、「胸骨圧迫」「AEDのボタンを自分で押せるようになる」「救急の現場で声をかける勇気をもてるようあなた自身の後押ししてほしい」という3つの「PUSH」に係る願いをこめて行っている事業です。

東日本大震災を体験した私たちは、今後も地域に密着した内容の防災・減災ツールの開発・普及を、「楽しく学ぶ防災・減災教室」で行っています。

これらの防災ゲームについてはまだまだ認知度は低いようですが、それでも、体験された方からは「楽しかった、まわりの人に伝えたい」といった言葉を頂いています。

防災ゲームの楽しさや効果は、体験してみなければわかりません。興味を持たれた方には、まず一度ご連絡を頂きたいと思っています。

わしん俱楽部

仙台市青葉区一番町4丁目1-3(〒980-0811)

仙台市市民活動サポートセンターNo.158

電話番号 022(256)8829 FAX 022(268)4042

電子メール sendaibousai171@yahoo.co.jp